



エコー・ニュースレター

Environmental Consultants for Ocean and Human

第 65 号

(令和6年1月10日発行)

本年1月1日に発生した令和6年能登半島地震により犠牲となられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆様、ご関係者の皆様に心よりお見舞い申し上げます。

新年のご挨拶

◆ 代表取締役社長 柴木 秀之

令和6年の年頭にあたり、昨年の皆様からのご厚情に感謝申し上げますとともに、本年も変わらぬご指導とご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。昨年5月、新型コロナウイルス感染症も5類となり、令和5年の年末の繁華街は活況を呈し、社会経済活動が急速に回復したことを実感しました。今年は、閉塞感を払拭し、健全で強固な経営基盤を確立するため、新たな挑戦を行う年と考えています。



令和5年度は、エコー第8次中期経営計画（令和7年度までの3年間）の初年度であり、「持続可能な経営基盤の確立」を経営目標とし、経営理念である企業倫理と持続可能な経営環境を基礎に、「人財と技術による共通価値の創造（コンサルタント業務による社会貢献）」を目指しました。その一環として、みなとSDGsパートナーの登録、カーボンクレジット購入などを行うとともに、社外研究機関への人財派遣による技術者の育成を進め、受注業務に関する顧客満足度調査を複数回行って、地域事務所と業務担当技術者が連携して、最高品質の業務成果を目指す取組みを継続しました。

令和6年は、経営基盤をこれまで以上に強固なものとするため、事業方針の1つに定めている「生産性および社員満足度の向上と業務改善」を最優先課題とします。そのために、全社員が、在宅・出社勤務を選択し、フレックス制度を活用して柔軟な勤務時間を選択することに加え、勤務地域も選択できるよう、地域事務所の環境整備を進めています。社員自らが最適な勤務環境を創造し、その結果、業務成果を最高品質とし、付加価値を創造する意識を持てるように全社で支援します。

今年が、皆様にとって、将来の展望に期待が持てる充実した年となること、また、ますますのご健康とご多幸を実感できる年となることを祈念いたします。

◆ 会長 富田 英治

「世界に通用する技術とは」

ウォシュレットなどのシャワートイレは、日本が世界に誇る技術だと思います。発売から40年以上が過ぎ、今や日本では当たり前になりました。最初に体験した衝撃は、映画「テルマエロマエ」の中の阿部寛の演技そのものでした。高齢者にとってはこれがないと「もう出ない」くらいの必須アイテムとなっています。ただ残念ながら、海外、特に途上国ではまだお目にかかったことがありません。やむなく携帯ウォシュレットを海外出張時に持参する方も多いようです。カルシウム分を多く含む水の場合、ノズルが詰まりやすく使えないとか、普及しづらい理由はいろいろあるようです。そもそも外国人はこの感触が嫌いなのかとも思いましたが、それは杞憂でした。



ダラスの空港でトイレに入った時、運悪くずらっと並んだ10の個室がすべて塞がっていました。他に並んでいる人もいないので、焦る気持ちを抑えて待っていたのですが、5分経っても一人も出てこず、何か異様な気配でした。もう我慢がならず守衛を呼ぼうと思った時、ようやく個室が1つ空いたので急いで飛び込みました。誰も出てこなかった理由が分かりました。海外には珍しくウォシュレットが付いていたのです。外国人も気持ち良くなってしまふことが分かりました。これならいずれ世界中に普及して、もう携帯式を持って行く必要もなくなりそうです。

日本発の技術のうちでも海外に受け入れられるために時間がかかるものもありますが、良いものは必ず受け入れられると思います。わが社にも、数値シミュレーション技術をはじめ、世界に通用する技術があります。地味でも、時間がかかっても、世界に広め、貢献できる技術の開発と発展・普及に取り組んでゆければと思います。

◆ 第6話 「酒蔵と元ヤン」

私が普段使いしている酒屋は「酒乃なべだな」と言って、成田線我孫子支線の木下（「きおろし」と読みます）駅の近くにありますが、もう、20年くらいの付き合いになります。この社長は、土日はだいたい店にいて、私は買いに行く度に、新しく仕入れた酒の味の特徴等、いろいろアドバイスをもらいながら選んでいます。ただ、たまに平日に行くといないこともあり、聞いてみると、地方の酒蔵にその仕入れ先拡大のために行っているとのこと。最近、これまで店頭になかった三重県の「作（ざく）」が店頭に並んでいました。これも、5年粘って取引を始められたと言っていました。その少し前には、宮城の「綿屋」の話をしていたら、取引を始めてくれました。



常務取締役
片山 昭

熊本に「花の香」という日本酒があります。「なべだな」で教えてもらって初めて呑みました。その時の話で、「なべだな」の社長は自称「元ヤン」（元ヤンキーの意）なのですが、「花の香」の社長も「元ヤン」で、話が合ったことも取引開始につながったとのこと。ついでに酒蔵に結構「元ヤン」が多いという話になりました。なんだか冗談みたいな話で、半信半疑だったのですが。

同じ時にもう一つ、「花の香」の社長のお姉さんが、熊本市内でアンテナショップをやっているとのこと。面白そうだったので、後日、出張の際に伺いました。「花らん香ろん」というお店です。2回目に行った時、たまたまお客さんが少なかったため、社長のお姉さん（実は先代社長）とゆっくり話をすることができました。「花の香」のみならず、熊本県内の日本酒、焼酎を多数取り揃えており、いろいろ教えてもらいながら、呑ませて頂きました。どれもおいしかったと記憶しています。ついでに、前述の元ヤンの話をすると、社長のお姉さん曰く「うちの弟もなんですよ。」とのこと。本当だったのかいと思ってしまいました。

「花らん香ろん」は、現在は店を閉めてしまったようです。「花の香」も商売のやり方を変えたようで、現在は「なべだな」の店頭にも並んでいません。そのへんの事情については、何かわかったら、後日また。



トピックス

◆ 出向者報告会・技術報告会

弊社では、毎年、技術研究所が主体となり、外部団体や研究機関に出向している社員による『出向者報告会』及び、各部門の代表者が1年間の業務の取り組みの中から特徴のある話題を論文として作成・発表を行う『技術報告会』を開催しています。今年度は、10月6日（金）に本社会場とWeb配信の併用により開催し、出向者10名及び12部門の代表者が発表を行いました。

技術報告会では、例年と同じく活発な発表、質疑応答が行われ、審査員による論文構成や発表内容の審査の結果、12名の発表の中から、沿岸計画部の川口直也 副担当技師（入社4年目）による「常陸那珂港区におけるAISデータを活用した船舶の滞船状況の整理・分析」の最優秀賞をはじめ、7名が各賞を受賞しました。

本報告会は、弊社にとって、技術・業務の発表を通じた研鑽、意見交換の場として重要な行事となっております。今後も様々な工夫を重ねて継続してまいります。

令和5年度 技術報告会 審査結果

- ・最優秀賞 川口 直也（沿岸計画部 副担当技師 4年目）
- ・優秀賞 片野 明良（調査解析部 主幹技師 29年目）
- ・優秀資料賞 水口 隼人（環境解析部 担当技師 5年目）
- ・優秀発表賞 濱島 俊輔（営業部 所長 7年目）
- ・若手職員賞 太田 琴子（沿岸環境部 副担当技師 5年目）
- ・努力賞 金城 圭汰（沖縄環境部 副担当技師 4年目）
- ・特別社長賞 2名（吉川 泰広、金城 圭汰）



◆ 若手社員研修会

業務に必要な幅広い知識の習得や他事務所の社員との交流等により、社員がチームワークを発揮しやすい職場環境を作るため、毎年、若手社員を対象とした現地研修会を開催しています。今年度は、東北・北陸・近畿・白島・沖縄の5コースにおいて、各地域の港湾関連施設等の見学を行いました。今後も、社員からの要望に応え、研修地域を増やして実施していく予定です。今年度の各コースの主な研修先と参加者の感想の一部をご紹介します。

【東北コース】

- 東日本大震災津波伝承館「いわて TSUNAMI メモリアル」
 - ・津波によって破壊された橋桁等が展示されており、津波の威力の大きさを改めて感じる事ができた。今まで身近に感じていなかった「被災」という事を考えるきっかけになった。
- 大船渡港湾口防波堤
 - ・当時設計や調査に携わった人達の一覧が飾られており、多くのエコー社員が復興のために尽力していたことや、エコー港湾部門の技術力の高さを改めて知ることができた。



【北陸コース】

- 伏木富山港
(富山地区、新湊地区、伏木地区)
 - ・エコーが設計した岸壁の工事状況を見学することができ、実際に自分が携わった現場の規模感がわかり、今後の検討の際のイメージがしやすくなった。
 - ・各地区を実際に見て回ることで伏木富山港の特徴や課題等を知ることができたので、今後の業務に生かしていきたいと思う。



【近畿コース】

- 神戸港震災メモリアルパーク
 - ・阪神淡路大震災から現在までの復興や神戸港の歴史を学ぶことで、港湾事業の重要性をより理解することができた。
- 兵庫運河人工干潟「あつまれ生き物の浜」
 - ・撤去した防波堤を材料に干潟を作るという発想が目からうろこだった。まさに理想的な環境再生事業になっていると思うので、今後そのような業務に携わることがあれば参考にしたい。



【白島コース】

- 白島国家石油備蓄基地
 - ・備蓄船の大きさ、基地の広さに驚いた。実物を見ながらの解説だったのですぐに理解することが出来た。安全管理を行っている現場に初めて立ち入ったため、とても良い経験になった。
 - ・事故が起こらないように細心の注意を払っている姿勢に感銘を受け、今後実施する調査にも同様の姿勢で挑もうと思った。

【沖縄コース】

- 那覇港
 - ・自分が携わる業務の検討対象地域を見学できたことが印象に残った。生物、特にサンゴなどの沖縄特有の生き物に配慮して整備する重要性を感じた。また、他事業部の業務内容を知ることによって、普段はあまり意識しない事業部間での業務のつながりを感じた。
- 生物分析センター
 - ・施設や実施している作業の説明が丁寧かつ面白かった。水槽で育成中のサンゴを見せていただき、種苗生産の様子が理解できた。

◆ 東京湾大感謝祭 2023

10月14日(土)～15日(日)に横浜市役所アトリウムにて『東京湾大感謝祭 2023』が開催されました。弊社もブースを出展し、海岸施設のVR体験や東京湾の生き物クイズ、環境調査に関する展示等を行いました。

東京湾大感謝祭は、海の再生を目的に「都市の海・東京湾」にふさわしいライフスタイル(SDGs、エコ製品、省エネ・再エネなど)を提案する場、また、東京湾周辺住民のコミュニケーションの場として、2013年より毎年10月に開催されている感謝祭です。今回も、2日間を通して多くの来場者の方々と交流することができ、日頃から海と関わりの深い活動を行う弊社にとって、とても貴重な機会となりました。

これからも人と海の繋がりに感謝しながら、日々の業務に取り組んでいきたいと思っております。



◆ ビーチライフ in 須磨 2023

昨年度に引き続き、NPO法人日本ビーチ文化振興協会主催「ビーチライフ in 須磨 2023」（11月4日）の『ビーチウッドボール大村杯』にエコーを代表し、グループ名「マリーノエコー・マリーノエコーⅡ」で参加いたしました。本イベントは、昨年度よりも規模が大幅に拡大され、須磨駅目の前に広がる海浜において、ビーチバレーなど本格的なビーチスポーツが開催されていきました。当日は好天に恵まれ、青い海、白い砂のきれいな海岸で清々しいスポーツを堪能することができました。今回は、奮闘も空しく入賞には至りませんでしたが、参加者全員が笑顔で楽しむことができました。次回もまた参加させていただきたいと思っております。（西日本営業部長 木下 隆司）



令和5年度発表論文

1. Journal of Science of The Total Environment, Volume 854, Page 158751, Elsevier [2023.1]

A 75-year history of microplastic fragment accumulation rates in a semi-enclosed hypoxic basin	Kenki Kasamo
--	--------------

2. 土木学会論文集B3 (海洋開発) [2023.6]

耐震強化岸壁におけるレベル2地震動発生後の凹凸変位の確率的評価手法の提案	住岡直樹
タワー・支持構造物の地震時の挙動に関する模型振動実験	小原陵
ERA5を用いた世界および日本周辺における波浪の長期変化特性	田中陽二, マナワセカラチャトラ, 鈴山勝之
準沖波に対する沖波の簡易逆推定手法の見直しと実海域における適用性の検証	森谷拓実
港内波浪の入射波向の簡易推定法を組込んだ高潮・高波浸水解析法の提案	樋口直人, 中村隆志, 原信彦
既存港湾施設の構造形式(楕円鋼管矢板式護岸)を有効活用した経済的なジャケット式棧橋の設計	團村肇
東北地方沿岸の確率準沖波諸元から逆推定される確率沖波諸元の妥当性に関する検討	森谷拓実, 田中陽二

3. 土木学会論文集B2 (海岸工学) [2023.11]

d4PDFのWRFダウンスケーリング計算による将来気候の確率波高の推定	田中陽二, Chathura Manawasekara, Mangala Amunugama
北条川放水路河口における分水堰を活用した効率的な砂州フラッシュ方法の研究	笠毛健生, 小野信幸, 森伊佐男
非構造格子モデルによる沿岸域の地形変化計算について	大竹剛史
指宿港海岸における天然砂むし温泉実施条件の現地観測に基づく検討	三宅崇智, 太田琴子, 網田全, 吉田光寿, 笠毛健生, 小野信幸
指宿港海岸における養浜実施が天然砂むし温泉に及ぼす影響の数値解析	笠毛健生, 三宅崇智, 小野信幸

4. Proc. of 11th International Conference on Asian and Pacific Coasts, (APAC2023) [2023.11]

Development of a Fluid-mud Model and Its Application to Field-scale Dredged Basins	Pailin Chatanantavet, Nobuyuki Ono
WRF Dynamical Downscaling for High-Intensity Typhoons of d4PDF	Mangala Amunugama, Yoji Tanaka, Katsuyuki Suzuyama
Application of WRF Dynamical Downscaling of JRA-3Q to Wave Simulation in Inner-Bay	Chathura Manawasekara, Mangala Amunugama, Yoji Tanaka
Study on artificial methods of sandbar flushing against blockages at the mouth of a floodway	M.A.C.Niroshinie, Nobuyuki Ono, Kenki Kasamo

※執筆者は、共著であっても弊社社員のみを記載



<https://www.ecoh.co.jp>

編集・発行 経営企画部



本社/〒110-0014 東京都台東区北上野 2-6-4 上野 TA ビル

TEL: 03-5828-2181 FAX: 03-5828-2175

事務所/北海道・東北・青森・秋田・岩手・北陸・富山・茨城・埼玉・横浜・中部・静岡・近畿・神戸・三重・中国
鳥取・島根・四国・高知・九州・福岡・大分・鹿児島・沖縄・ソウル・マダガスカル・モザンビーク